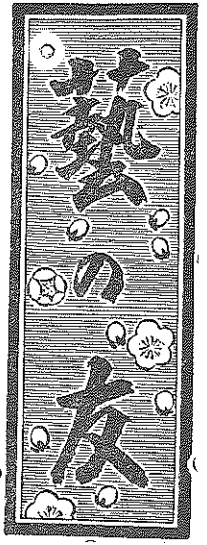


琵琶詩吟名匠録

- 琵琶詩吟名匠録
鶴派琵琶史会本部
会主 鶴田 錦史
136 東京都江東区亀戸三ノ丸ノ...



遅い芸魂

現代吟詠界の女王と称えられる
静風流吟詠の会
立錫の余地なき
満員の大人気さ



(佐川師)

年になられる。天稟の聰明英才は
忽ちにして多くの門下生を指導育
成し、国民精神作興に大きく貢献
されつつあることは周知の通りで
ある。その静風流吟詠温習会が五
月十六日午後一時より東京虎の門
の船舶振興ビル船舶倶楽部に於て
催されたことは前号で報道した
が、当日は一時の開演に早くも聴
者殺到して開会前に数百名収容の
会場は満員となり、一時以後の入
場者には座席はなく終始立んぼう

琵琶特集 七月号

で傾聴する大人気であつた。
会場ロビーには、三藤、ハワイ
協会、ワンピース産業、藤吉男、門
弟一同等よりお祝の生花、祝品が
飾られて、他の大会なみの景気が
示され、佐川師ならではの会況で
あり、抹茶の接待、お土産附での
もてなしは感謝の外はない。
この日上吟された詩歌は六十余
題で、香組には吟者や歌詩全部が
印刷されてあり聴者には良き参考
書となるなど周到の配慮に敬服せ
ざるを得ないが、一門の出演者の
態度も頗るいんぎんで明るく、礼
儀の正しいのに感心させられた。
出演は佐川宗家、一門の那波鳳翔、
飛田鳳祥、峯鳳麗、飯塚鳳有の各
会長以下八十余名で、独吟、合吟、
茶道吟、吟詠と舞踊(茶道、舞踊
出演は各家元)等が上場され何れ
も拍手盛んであつたが、特に佐川
師江師を中心に飛田鳳祥、小川鳳
慧、飯塚静麗、味野野野麗五女流の
「琵琶と吟と笛の調べ」は勢二面
の伴奏、笛を入れた新作曲で、
テレビで毎週連載上演中の伊達麟
助記を、島田鶴也氏に作詞を依頼
し宗家作曲の発表で、吟にははま
り琵琶歌となり、また吟に移り琵
琶と交響するその変調の妙の芽えは突

日本琵琶協会の

- 大館琵琶洲楓会本部
家元 大館 洲楓
150 東京都渋谷区渋谷二丁目六ノ...

素晴しい演技 万国博の鶴田師

世界的寒暖の最高峯の名匠と讃
えられ日本人の誇りである琵琶の
名人鶴田師が、既報の通り五
月三十日夜七時より目下大阪で開
催中の万国博の鉄鋼会館音楽堂へ
出演し師十八番曲の「壇の浦」を
弾奏された。これは邦楽第一級の
巨匠実演数番中の一駒であるが、
この実演は万博会期中二度と行わ
れぬものだけに千余人収容の大会
場の開演前既に超満員の盛況、鶴
田師の琵琶は天下一品と定評の至
るまでに驚き激賞されたものである
だけに、その研えた妙技、幽雅典
雅壯麗な歌節は聴者の心魂を揺か
し、恍惚として天夢に在る心境に
至らしめて絶讃を受けた。



(鶴田師)

に巧みで、満場只満として息をの
むのみ、琵琶と琴との音色の和、
鮮やかな弾き手、流石に一同酔わ
されて頻りに感嘆の声を湧し終了
後暫し拍手が止まらなかつた。
山紫水明の温泉郷で、鎌倉幕府を
開いた源頼朝緑の地で、各所旧
蹟もあり風光明媚の観光地として
有名である。ここに住む鶴風流琵琶
の宗家入谷錦鳳師は、円満重厚
の高潔な人格者で特に礼節情義の
紳士として市民の敬愛を集め、常
に社会浄化教導の爲め奉仕活躍に
寧日ない忙しさである。
師はライオンズクラブの会員で
あり琵琶の外趣味として川柳、吟
詠、写真技術に長じ斯道の大家と
して知られる。従つて静岡県下で
の各会には出席され、老人ホーム
慰問等で忙しく、琵琶、川柳の両
道を老人を楽しませる人情大家の
面目が躍如として光る。

福手錦稜氏歓迎 五月の琵琶振興会

- 錦心流琵琶教授
静水会
本部 松田 静水
105 東京都大田区南千束三ノ七ノ...

御挨拶

五年ほど前、次の時代の琵琶
界を担うべき若い人たちの演
奏会を定期的催したいと考
え、各流派の方々に出演願う
「新樹会」が発足して以来
皆様のご協力とご支援を賜りま
したことを厚くお礼申しあげま
す。お蔭様で目的はある程度達
成され、青年演奏家もそれぞれ
個性のある芸風を演奏会ごと
に発表し、一本立のできる方が何
人も現れてきましたので、私も
かげながら喜んでおります。
「新樹会」の盛會を喜ぶ一方
私はかねてからこのように技術
的に向上した若い人達の進路を
さらにひろげることもとよい方
法はないものだろうかと思つて
居りました。自分達の演奏活動
を企画してみたいという声があ
りました。そこで私は「新樹会」
を打切ることとし、新たに自主
的に結成されるという「青年琵琶
音楽集団」をかねがねが応援す
ることの方々に大きな意義を感じ
るようになりました。
今まで新樹であつた人たちは、
すでに成熟期近かな幹の太い樹
木になつたといふこともでき
るでしょう。
これらひとえに皆様の温かい
ご支援のお蔭と存じます。
どうか今後一層、成長の過程
を見守つて下さいませう。私か
らお願い申し上げます。
鶴田 錦史

福手錦稜氏歓迎
五月の琵琶振興会
鈴木密水会長の日本琵琶振興会
五月例会は、二十四日正午より新
宿歌舞練場で、米國羅府在任の福
手錦稜師歓迎会として開かれ、主
賓福手師、錦水会本部福沢立枝、
細錦司、一水会松田静水名譽会長
等この会始めての賓客も見え、鈴
木密水会長以下関係者と各流派の
受好家四十余が出席され、和やか
なうちに各目的演技が行われ、夜
の八時過ぎまで賑つた。

御挨拶
五年ほど前、次の時代の琵琶
界を担うべき若い人たちの演
奏会を定期的催したいと考
え、各流派の方々に出演願う
「新樹会」が発足して以来
皆様のご協力とご支援を賜りま
したことを厚くお礼申しあげま
す。お蔭様で目的はある程度達
成され、青年演奏家もそれぞれ
個性のある芸風を演奏会ごと
に発表し、一本立のできる方が何
人も現れてきましたので、私も
かげながら喜んでおります。
「新樹会」の盛會を喜ぶ一方
私はかねてからこのように技術
的に向上した若い人達の進路を
さらにひろげることもとよい方
法はないものだろうかと思つて
居りました。自分達の演奏活動
を企画してみたいという声があ
りました。そこで私は「新樹会」
を打切ることとし、新たに自主
的に結成されるという「青年琵琶
音楽集団」をかねがねが応援す
ることの方々に大きな意義を感じ
るようになりました。
今まで新樹であつた人たちは、
すでに成熟期近かな幹の太い樹
木になつたといふこともでき
るでしょう。
これらひとえに皆様の温かい
ご支援のお蔭と存じます。
どうか今後一層、成長の過程
を見守つて下さいませう。私か
らお願い申し上げます。
鶴田 錦史

鶴田 錦史

昭和四十五年七月一日発行

非売品

編集発行 鈴木密水

東京都練馬区豊玉北五ノ十一

芸の友社

橘会全国大会



(写真説明)

筑前琵琶日本橘会全国大会の公演が四月五日午前十時半より名古屋市中区東別院青少年会館大ホールに於て開催され、全国より参加の代表者五十余名により琵琶芸術の発展を遺憾なく發揮して約六百の聴衆を感激させ好評を得て成功を収めた。写真は当日の記念撮影である。(前列)向つて右より志水旭城、鈴木旭芳、吉田旭...

蘇川の遺徳 輝いた追善会

各派名手の追悼 錦波未亡人感謝

忠君愛國の日本精神を高唱して琵琶道普及に献身し、錦水流永田錦心宗家と並び讃えられた一代の名匠蘇川流宗家田辺蘇川師が逝いて四年、高潔の人格と温情の徳風で社会教化に尽くされた徳望を慕う一門並びに愛好有志の集団である...



(田辺錦波女史)

十二時施主田辺錦波女史により「坐禪和讃」の追悼初手の曲が奏され、つづいて柴野清水、青木蘇光、徳武近水、出口石水、石井蘇水代理板倉穰水、角田置水と一門や親交の深かつた方々の独奏が行なわれ、水藤五郎、藤波桜華、新部桜水、水藤錦穂と錦びわ一門の須田誠、仲川秀邦さんの各単奏あり、戸谷曙水、古宮蘭水、内田翠水、岡枝映水、杉本淳水五人の掛合「舟弁慶」の奏曲で第一部を賑わし挨拶に移る。舞台には田辺...

岳城流誠樹会 結成披露好調

新人の正気燃ゆ

一代の絃聖と称へられた薩摩琵琶岳城流宗家故吉村岳城先生の遺業は、高弟伊藤岳英、輕部岳瑞、横山岳岳、大友岳松の大家たちに依つて流派の真技を高められつつあるが、別して伊藤師の献身の努力による指導が流派拡張の大きな期待であったが、伊藤師が先年來病魔に襲われ臥床の人となつてより新人への指導養成意に任せずの状態となつたので、昨年来輕部岳瑞師が伊藤師の意を受けて指導に当り東京、名古屋の同門後輩の...

教導に専念されている。この努力は新人達を感激させ今回誠樹会を結成させるに至つたものである。その披露演奏会が五月二十四日午後零時半より芝公園金地院客殿で催された。金地院は宗家吉村先生の菩提寺で先生の墓地も寺境内にある。会場の客殿は紅白の幔幕を張り金屏風を背景に祝生花と故宗家の遺影を飾り、座敷は一面に赤モーションを敷きつめる床しき。大塚氏の開会の辭に次いで津和田氏の「背公」で開演、輕部岳瑞、新納岳窓両氏の独奏、大塚氏の絃で八會員による「春の調」の合奏があり、武井岳靜、宮崎岳燈、石山岳殿、新納岳窓四氏の各単独奏が行われ、輕部岳瑞師の絃で、會員宮崎岳燈、津和田幸男、田中旭、伊藤富康、石山岳殿、内山貴美子、室伏良子、大曲初枝、吉田勝江、田村晴司、安田司十一氏の歌「桜狩」の合奏で新人の精気溢れる歌いぶりで来聴者を喜ばせた。テープによる伊藤師の「川中島」の演奏で岳城流の妙諦を深感した。大友岳松氏の挨拶のあと山木岳盛老を先客に大阪杉秀夫、大塚岳峻、秋田鈴木岳亮、名古屋山田岳業、桑名洲聖、池野谷吟岫諸名手の順奏で妙技が披露され、更に城山会大幹部の大友岳松、輕部岳瑞両氏の巧演で好評裡に終了した。西氏の宗家未亡人時子女史が、昨年疾患で手術されて以来初めて会場に姿を見せ、流門の一統を激励された。札幌の横山岳岳師は健康回復せず欠席され聴衆を落膽させたが止むを得ない。

各流琵琶楽大会 名手の競演空し

聴衆不入が問題

日本琵琶楽協会と邦楽の友社共同主催の各流琵琶楽大会が五月二十三日正午より東京九段下の日刊工業新聞社ホールにて開催され、在京の正派、筑前、錦心各派の精鋭と花形名手三十六名と京都四明会の中堅平井春嶺氏が参加出演され、心魂の熱技が上演された。出演者の顔触れより見れば当然人気も沸騰して数百の入場者はあるものと想像されたのに、快晴の天気にも拘らず聴衆は百余名に過ぎないのは意外である。

出演されたのは須田誠、長谷川旭苑、宮崎洲香、広瀬翠紅、竹下翠風、平井春嶺、鈴木鶴岡、半田史華、押川旭葉、藤巻旭鴻、藤波桜華、原島旭姪、仲川旭朋、青山旭光、谷口旭節、古田耕水、池田脩水、弘沢雨水、須田旭綱、石野谷吟岫、吉成登城、山下旭楓、宮田旭寿、新部桜水、田中旭嶺、前田洲月、鈴木鶴岡、島田春水、鈴木密水の諸氏で、斯界の各派中堅の粒揃であるのにこの不入りは予測もされぬ事だ、主催側の宣伝不足か、他に理由あるのかは別として出演者は多量の入場を期待した相当多額の出演責任を負担したのにと聞く。それに午後四時以降の出演の場合は聴衆は百名以下で最後の奏者は十数名であった。こうした現象は出演者の芸力や人気による所もあるが、主催側

加藤錦陽会満員

東京三鷹市の邦楽協会の大幹部

で人気男で知られる加藤錦陽氏の主宰する錦心流琵琶錦陽会は、市民慰安の行事として演奏会を続けること十数年。今では毎年の行事として市民待望の的となつてい。春の催しの公演は快晴日の五月二十四日〇時半より三鷹市民会館にて行われ、呉宛静軒老の「白虎隊」を先番に山口、坂入、原島宮崎、青木、水藤、小沢錦弥、藤波桜華の晴風会と錦流の新鋭組の出演について会主加藤錦陽氏が「舟弁慶」の曲で大熱演で満場の拍手を受け、更に村木桜柳、山下晴楓、新部桜水、前田洲月、水藤錦穂、浅野晴風と定評ある巨匠、花形名手連の大競演が展開されて聴衆を酔かしめ好評裡に六時近く終了となつた。

四明会の大会

関西唯一の薩摩琵琶の大団体である四明会は、京都琵琶の元老栗本天芳翁を首班に京阪神の同好の外東海地域より参加され、大会には九州、東京より参加出演が例となつてい。同会春の大会は五月二十四日正午より芦屋市の市民会館にて催されたが、今回は薩摩派同好の外錦心流の蓮水会、さつき会よりも参加され、新人参

琵琶史劇舞踊団の公演を観る

加もあつて多数出演で盛会であつた。出演の主なる者は小野鶴彦、島津正、藤崎天光、岡部錦輝、有馬南城、平井春嶺、伊吹正陽、小野天源、杉本治作、市来貞村、長谷川博章、香川錦風、栗本天芳の四明会員、東京正統会より須田誠、遠藤鶴東、関口竜水、八東一峰、錦心流より藤原英次、三浦蓮水、木村蓮香、矢吹華水、竹内蓮洲、反町翠水、新進の山本勇、平井文子、青島晃苑、大石晃月、桑谷晃岳、名誉会員杉秀夫、伊勢谷安江の諸氏であつた。

黄。琵琶茶道「煎茶点前」で、琵琶に井坂旭良、花方旭路、佐藤旭天紅の橘会系の中堅花形連に多数客出場の場面。「茨木」は渡辺綱の館で、茨木童子が吉之助、渡辺綱が室井翠時、琵琶が井坂旭良、筆井坂翠時で、茨木は本衣袋をつけての活躍であつたが脇役の貧弱さで、家元一人が光つていたに過ぎない。舞台も照明も不完全で驚かして居られるが、他の出場者とのイキが完全でなく練習不足が伺えたのは惜しい。琵琶は元来聞くだけの音楽であるが、大衆向きに発展さす為には、舞踊を取り入れたりの興味を引く対象となるが、琵琶芸術の品位を落さない心懸けを忘れないことが肝要である。(誉)

東京橘会の温習会

筑前琵琶東京橘会の温習会(第三回)は、五月二十二日正午より世田谷区代田の山元旭錦宗範邸で開かれ、伊沢旭源、稲葉旭隆、大塚旭峯、金子旭昭、川喜多旭麗、木下旭電、齋藤旭雪、佐々木旭皓、膳場旭竜、角田旭岑、中島旭晋、野村旭福、花方旭路、花方旭嶺、本庄旭優、丸山旭社、本國旭紀、山田旭静、吉益旭扇の諸会員出席し、各員研究曲を上演され、山元宗範の指導を受けて研修された。

晴風会の阜月例会

琵琶両道の名匠浅野晴風師主宰する晴風会の五月例会は、十七日

暑中交礼に就て

御愛読者皆様の御清邁をお喜び申し上げます。本年も盛夏初夏の候となりました。本社は恒例により暑中御見舞の紙上交礼号を八月一日附で発行し各位の御健在を祝福し合いたいと願つて居ります。御賛同御申込みをお願い申し上げます。御氏名掲載料は一人一圓金千円以上、御連名は一人金八百円。御申込み締切りは六月三十日限り、御申込は住所、御氏名明記、料金を添えて期間中に御申込み下さい。

晴風会七月例会

十二日新宿にて

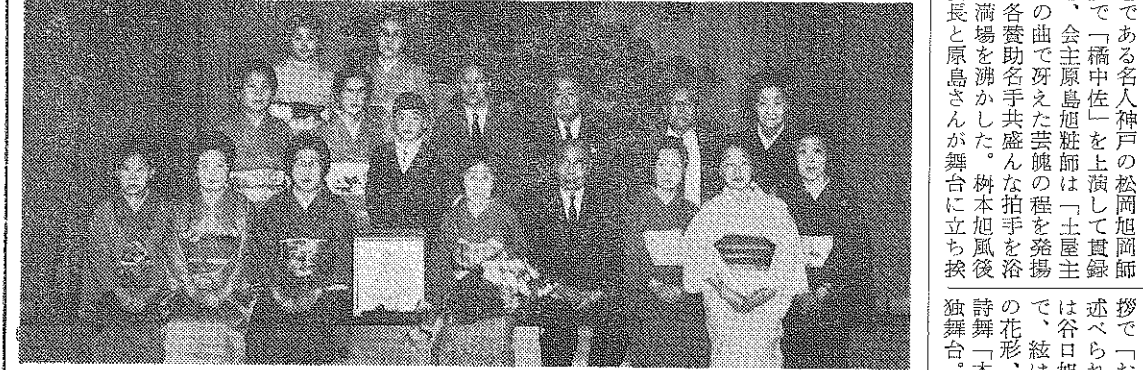
芸家浅野晴風師が指導する晴風会の七月例会は、十二日正午より新宿区西口朝日生命会社地下和室に於て開催されると。

華かや舞台で 旭粧会公演成功

筑前舞臺東京旭会女流の第一人者で、氣品と貴族を備えた名匠と定評の原島旭粧女師の旭粧会初の演奏会が六月六日十一時より新宿伊勢丹ホールにて開催された。金屏風背景の舞台左右には紅会と金員一同より祝贈の生花、祝座布団演奏の第一は會員の演技で「君が代」を序奏に、沢村旭暉、永田旭暉、橋本旭行、阿部旭志さんと各単独演がつづき、六曲目の「月に偲ぶ」、七番目の「山吹の夢」の二曲は安江旭治、天野りえ子さんの歌で、絃に原島師外敷名宛が出演されて賑やかな舞台を示す。青木旭昌さんの「大物の浦」独演で力量ある演技が揮われ、高野旭美、岡田旭暉さんの各単奏で会の中堅振りを発揮、佐久間旭暉さんの「あつもり」は、絃を原島、谷口、高野、安江、笛石高で會員の敲りや飾る。都議會議員清水氏の挨拶で原島師を讃えた。

第二部賛助出演の名手の先陣は創元会の石坂南水氏、二陣は東大阪の中沢旭洋、三番手が若水会の若水松松会長、四番に藤巻旭暉師、続いて紅会同人原旭潮、原田旭柳、小笠原旭星さんの歌「橘三番叟」を絃押田旭翁、田中旭千栄、仲川旭朋、青山旭光さんで華やかな大舞台をくり展げ、更に振興会鈴木密水会長、東大阪榎本旭波、東大阪高千穂旭楓各氏の競演と東大阪旭会々長で原島師の後援会々長である榎本旭風師が、全国旭会の大

和光会二十周年記念祝会



（説明）筑前舞臺和光会の創立二十周年記念祝会が五月五日東京世田谷区代田八幡宮で行われた。写真は当日の記念で（前列）向つて右より吉益和子、松村旭暉、大津吉益、鈴木善士、会長吉益旭暉、記念品人形、竹下梨風、原島旭粧、野田旭暉、（二列）右より稲葉旭暉、原田旭暉、大串旭好、石崎旭暉、石崎旭暉、吉川旭暉、岡田旭暉、（三列）右より佐久間旭暉、野村旭暉の諸氏

吉益旭暉女史は大正七年静岡にて中村旭暉さんについて舞臺を始めたのが斯道の最初で、昭和十八年旭会宗家より大司の免状を受け、同三十年橋会に入り山元旭暉さんに師事し、三十八年宗家師範代に昇格された大家師である。吉益女史の夫君俊次氏は明治、大正、昭和に亘る有名な司法官で検事長を兼ね、昭和二十年一月逝去されているが、正三位勲二等旭日重光章を賜り、葬儀の際は天皇陛下より祭料を賜られた榮誉者である。

鶴田錦史師主催 新樹会最後公演

次代の舞臺界を担うべき後継者を育成するのを主眼として、五年前に鶴田錦史師が設立された新樹会は、年一回の公演に東京、近県と東北、九州より新人を選んで出演させ、漸く斯界注視の的となつたが、同会は出場青年達の成長により希望に任せて自主的結成することになり新樹会は打切ると決しその最後の演奏会を六月十八日夜六時より日本橋第一証券ホールにて催された。出演者は高山田鶴子、石渡鉦幸、佐藤智水、青山泰子、水藤五郎、須田誠、半田綾子、山口修、吉川良和、板倉穰水、中谷聰余、平山万佐子、山本周水の十三人、絃のみに鶴田錦史、嶺旭暉、平野鉦水の三師が出演され新進の意気壯々な演技が競われて大人気であつた。（会況次号へ）

御礼

青葉若葉と色あざやかな季節と相成りました。御座家御一同様には益々御清栄の段御喜び申し上げます。さて去る五月十日交際社ホールに於て、故田辺錦波師追悼大會を開催致しました。節は雨天にも拘らず御多忙の中を御光臨下さいました。その上御厚志を賜りまして誠に有難うございました。誠に致しましては誠に有難うございました。御座家御一同様から感謝を致し居ります。御座家御一同様から感謝を致し居ります。御座家御一同様から感謝を致し居ります。

主催 世話人一同 主 田辺錦波 横濱市西区西戸部三、二八九（叶莊）

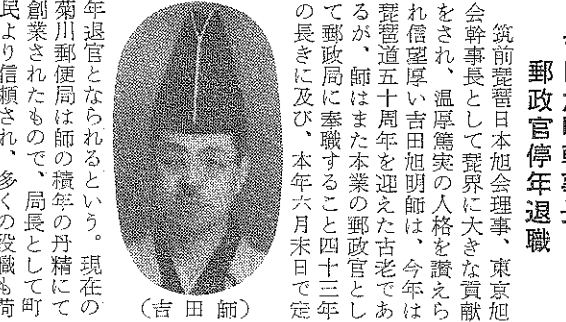
稽古を始めた 名匠 大津旭紅師



道義国日本は戦後民主国家となり、人権尊重、自由主義の声と共に憲法に対する処罰が軽くなった結果、各種犯罪が激増して善良の國民が苦しめられ、正直者は馬鹿を見る世の中と憂えている者が大多数である。この現状の来る所には道義心の廃頽であり各家庭に於ける情操教育即ち躰（しつけ）指導の欠陥であるといえると思う。三つ児の魂までという諺の通り幼児の正しい家庭教育が行われずして立派な人格者は育成されない

道義国日本は戦後民主国家となり、人権尊重、自由主義の声と共に憲法に対する処罰が軽くなった結果、各種犯罪が激増して善良の國民が苦しめられ、正直者は馬鹿を見る世の中と憂えている者が大多数である。この現状の来る所には道義心の廃頽であり各家庭に於ける情操教育即ち躰（しつけ）指導の欠陥であるといえると思う。三つ児の魂までという諺の通り幼児の正しい家庭教育が行われずして立派な人格者は育成されない

吉田旭明幹事長 郵政官停年退職



筑前舞臺日本旭会理事、東京旭会幹事長として舞臺に大きな貢献をされ、温厚篤実の人格を讃えられ信望厚い吉田旭明師は、今年に罷道五十周年を迎えた古老であるが、師はまた本業の郵政官として郵政局に奉職すること四十三年の長きに及び、本年六月末日で定年退職となられるという。現在の菊川郵便局は師の積年の丹精にて創業されたもので、局長として町民より信頼され、多くの役職も荷つて居られる。師は退官後は趣味としての舞臺道に専念し、社会教化の一役を果したい意向で、今秋に斯道五十周年記念の会を開く予定であるという。

巨星堀田旭甲師が 吟詠甲心流発会

東海道岡崎市に在る筑前舞臺日本橋会事務局長である謙謙実直の人格名手堀田旭甲師が、詩歌吟詠「甲心流」を創立し、國民思想教育の一助に尽したいと先年その指導に努めて居られたが、機熟して今回「甲心会々長堀田甲堂」として発表会を六月七日十時より同市勤労会館に於て旗揚げした。杉浦大会副委員長の開会挨拶を會員一同の君が代齋唱で開幕、合吟、独吟、吟舞四十数番上演あり、更に第四部では個人吟十数番と「岡崎讃歌」を舞三人、唄十人吟二十人出場の大舞台で演じ觀衆の大拍手を受けた。名古屋、彦根地区吟界の新鋭四者独吟につづいて吟舞新作「弁財天」上演し、各会代表吟に入り名古屋志水旭城、大阪寺尾水芳、彦根林田錦華、名古屋若見香城、同石河薫楓、彦根山本城嶽の各大家の巧吟、最後に堀田会長の絶吟で盛會裡に終了した。因に甲心会は會員の雅号に（水）の字を使用するのが異色。

鈴木社長誕生 五月二十四日は本社鈴木善士社長

五月二十四日は本社鈴木善士社長誕生の日である。鈴木善士社長は、上野公園不忍池畔の料亭東天紅に親友達を招待して誕生日記念の祝宴を催された。

明治維新の勤皇と佐幕の戦争に佐幕派に加担し、上野の山の花と散つた義士達の墓は、百余年を経た今日でも、上野公園正面階段上に苔むした墓標を囲み香煙の絶ゆる事なく東京都民に誠忠を仰がれ、五月十五日の命日には毎年供養祭が墓前で挙行される。今年も晴天に恵まれ台東市長、遺族、市民多数が参列して祭典が行われ、北白川元宮家、徳川家よりの拜礼もあつたが、席上田辺錦波女史は速見水さんと「義義隊」の舞臺を奉奏して参列者感激させ、関係者より感謝された。

故伊藤ナカ女史 七七法要埋骨式

現代吟詠界の翹者一誠流宗家、一誠会々長伊藤長四郎師の夫人ナカ女史は、貞淑の誉れ高い賢夫人で知られ、一誠会今の大成に夫人君を扶けた功勞大であるが、去る五月一日逝去されてより早くも四月に近い六月七日午前十時半より東京音羽護国寺本坊に於て七七忌の盛大な法要が厳修され、遺族親戚知己吟友、一誠会幹事部百余名が参列焼香された。法要は導主僧以下九僧侶の誦経で厳かを極め、式後遺骨は喪主伊藤貴美子医師博の手に抱えられて同寺境内の墓所内の伊藤家の墓地へ埋骨され、寺僧の説経、一誠会員の献吟あり正午近く埋骨式は終了した。

伊藤家では参列者一同を同寺客殿に招き供養の饗宴を開き、席上司会幹事の挨拶、喪主貴美子さんの挨拶の中に「長四郎先生の故夫人に対する真情と夫人の美德を偲ばれた切々の夫婦愛」の情義に列席者一同深く胸を打たれた涙する人も多かつた。ついで司会者より故人を偲ぶ思いでは菅原、大島、近藤、肥後、柴田、坂入の諸名手に乞うて各披露され午後二時近く解散となつた。この日の主な参列者は、遺親族、一誠会幹事部の外東京吟詠連盟菅原会長、静岡流宗家笹川鏡江、国風流宗家雨宮国風、日本吟詠詩舞振興会坂入副会長、岳城流舞臺城山会代表藤部岳瑞、芸の友社鈴木善士知名諸氏であつた。（故人の法名は惠康院清貞妙仲大姉）追記す。

福手錦稜師帰米

米國ロサンゼルス在住の輝水会北米支部長福手錦稜師は、去る四月十八日東京上野公園精養軒にて舉行された芸の友社二十周年記念祝典に参列のため四月二十日羽田空港着訪日、以来関西と九州路を観光滞日中であつたが、五月三十一日夜半一時羽田発日航機で帰米され、六月一日恙なく帰宅された。

山口速水師放送

東京一水会の名手山口速水師は七月十四日NHKで「羅生門」の曲を放送されると。

一水会札幌支部 再組織披露の会

錦心流一水会札幌支部は、先年夕張より移住された二反田岳水師の積極的な活動により再組織運動が続けられ本年一月に完結されたので、その披露演奏会を七月に開催される。この会には来賓として東京本部会長小山田賞水師、同理事山口速水師が来演される。支部有志も賛助出演されると。

